

令和8年 第3回 大仙市議会定例会

# 市 政 報 告

令和8年8月21日

大仙市長 老 松 博 行

令和8年第3回大仙市議会定例会にあたり、諸般の状況について申し上げます。

はじめに、熊本地震及び千葉豪雨についてであります。

7月28日、熊本地方を震源とする最大震度7の地震及び8月13日から14日にかけて千葉県において発生した記録的な大雨により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されたすべての皆様に心からお見舞いを申し上げます。

熊本、千葉両県におかれましては、甚大な被害に加え、連日の厳しい暑さも重なり、復旧作業にも御苦勞が続いていることと存じますが、二次災害に注意しながら安全の確保を第一に、一日も早い復旧・復興が進みますことを心よりお祈り申し上げます。

市といたしましては、熊本地震への支援として県及び日本水道協会に対して、保健師や住家被害認定調査員、給水車について派遣が可能であることを報告し、支援要請があった場合には、迅速に対応できる体制を整えているほか、千葉豪雨への支援については、被災地の受け入れ体制が整い次第、支援要請に応じて適宜適切な対応をとってまいります。被災地の復旧に向けて、今後も市としてできる限りの支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、本市の大雨被害についてであります。

7月29日から8月2日にかけて、低気圧や暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により、県南部を中心に2度に渡る大雨に見舞われております。市では、刻一刻と変化する局面にあわせて災害対応体制を柔軟に見直しながら、市民の皆様の安全確保を最優先に、河川の増水や土砂災害への警戒にあたるとともに、自主避難所の開設や内水排水、交通規制など早め早めの対応に努めたところであります。

幸いにして、一連の大雨による人的被害はなかったものの、降り続いた雨により、住家2棟及び非住家4棟において敷地内の浸水被害が生じたほか、農作物や農地・農業用施設、林道への被害も確認されております。被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

市といたしましては、立て続けに発生した大雨災害からの早期復旧を図るため、土砂の撤去作業などの応急復旧のほか、農地や農業用施設、林業用施設の復旧に係る補正予算を今次定例会に上程しており、本会議初日での議決をお願いしております。

引き続き、一日も早い復旧に全力で取り組むとともに、これからは台風などの発生が多くなる季節を迎えることとなりますので、激甚化・頻発化する災害に対して備えを万全にするため、関係機関と連携を図りながら、防災・減災対策及び災害対応体制の充実・強化に努めてまいります。

次に、ツキノワグマの出没についてであります。

8月18日現在、過去最多となった昨年同時期を上回る274件の目撃情報が寄せられております。秋田県内においても、昨年の大量出没を上回る目撃件数となっているほか、クマによる人身被害が7件、うち死亡事故が1件発生しており、ツキノワグマ出沒警報の延長が繰り返されるなど予断を許さない状況にあります。

こうした状況を受け、市ではこれまで「庁内連携推進本部」のもと、市民の皆様の安全・安心を守るため、市公式LINE等を通じた情報発信や注意喚起に加え、猟友会や警察をはじめとした関係機関と連携した緊急時の体制強化などに努めてきたところであります。

しかしながら、年々市街地への出没が増加傾向であることに加え、人身被害の発生も後を絶たないことから、6月1日付けで「庁内連携推進本部」を「ツキノワグマ対策本部」に格上げし、対応の更なる迅速化を図るとともに、イベント時におけるクマ対策マニュアルの策定や追加対策の検討をしてきたところであり、今般、捕獲体制の更なる強化を図るため、今次定例会に関連する予算の補正を上程しており、本会議初日での議決をお願いしております。

次に、物価高騰対策についてであります。

市では、これまで国や県と歩調をあわせつつ、国の臨時交付金等を

活用しながら、物価高騰対策を講じてまいりましたが、中東情勢の緊迫化などを背景とした物価高騰は、いまだ収束を見通せず、依然として私たちの生活や地域経済に大きな影響を与えております。

こうした状況を受け、今般、追加対策として、長引く物価高騰の影響を受けて経営負担が増している製造業や建設業等の事業所を支援するほか、市内の保育施設等を対象とした給食の食材料費価格高騰分を支援するため、今次定例会に関連する予算の補正を上程しており、本会議初日での議決をお願いしております。

次に、主な部局ごとに諸般の報告を申し上げます。

はじめに、総務部関係についてであります。

行政サービス改革につきましては、行政サービスの質と職員の接遇意識の向上を図るため、この9月から、大曲庁舎における外線電話の通話録音を開始することとしております。運用にあたりましては、自動音声による事前告知を行ったうえで、関係法令に則り通話記録を適切に管理し、その利用については、捜査関係などの法令に基づき提出を求められた場合やカスタマー・ハラスメントへの対応に限るものとしております。今後も市民の皆様の利便性を最優先に、行政サービスの向上に努めてまいります。

次に、企画部関係についてであります。

大曲駅西口周辺地区整備事業につきましては、ＪＲ東日本秋田事業本部及び大曲商工会議所との協働により策定した「大曲駅西口周辺地区整備基本構想」に基づき、サウンディング型市場調査に向けた準備を進めているほか、基本計画の基礎となる地形測量を実施することとしており、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

ふるさと納税につきましては、この７月、東北で初導入となる後納型ふるさと納税サービス「あとふる」の運用を開始しております。本サービスは、旅先での支出を後からふるさと納税に変えられるもので、これにより、購入済みの「大曲の花火」観覧席チケットをふるさと納税の返礼品にすることが可能となるため、より多くの寄附機会を提供できるものと捉えております。今後も、効果的な情報発信に努めるとともに、本市を継続的に応援していただける方々の拡大につなげてまいります。

次に、健康福祉部関係についてであります。

健幸まちづくりプロジェクトにつきましては、７月２５日、本市と連携協定を締結する企業等のご協力のもと、ふれあいスポーツランド「ソラーレ」とふれあい体育館を会場に、「健幸モーニングウォーク」を開催しております。当日は、市民をはじめ３４５人の皆様にご参加いただき、「秋田ノーザンハピネッツ」のトロイ・マーフィージュニア

選手、元田太陽選手と一緒にウォーキングや体組成計による測定会、選手への質問タイムなどを楽しみながら、健康づくりへの理解を深める機会となっております。

次に、こども未来部関係についてであります。

屋内遊び場施設整備事業につきましては、6月15日から7月9日までの期間、施設の愛称について投票を呼びかけた結果「ふるる」に決定したところであり、今後、ロゴマークを制作し、各種広報活動で幅広く活用しながら、広くPRしてまいります。

次に、農林部関係についてであります。

「農業と食」地域活性化推進事業につきましては、「『農業と食』地域活性化プラン」のもと、基本目標の一つである「持続可能な強い農業」を推進するため、今般、国の事業採択を受け、労働生産性の向上に向けたスマート農業用機械の導入に対して支援することとしており、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

畜産振興につきましては、7月1日、笹倉公園を会場に「第20回大仙・仙北・美郷畜産共進会」が開催されており、大曲農業高等学校が飼養した肉用牛2頭を出品し、うち1頭が「優等賞2席」を獲得しております。今般の上位入賞は、令和9年に北海道で開催される「第13

回全国和牛能力共進会」への出品に向け、自信を深めるとともに大きな弾みになったものと捉えており、県や関係団体と連携を図りながら、引き続き挑戦を後押ししてまいります。

次に、経済産業部関係についてであります。

雇用・就業対策につきましては、6月18日、大曲西中学校を会場に中学生向けの企業説明会を開催したほか、7月6日には、高校生の県内就職の促進に向け、大曲エンパイヤホテルを会場に「令和8年度仙北地域求人説明会」を開催しております。求人説明会では、ハローワーク大曲と角館管内の企業44社が出展し、来年3月卒業予定の高校3年生127人が参加しております。今後も関係機関と連携を図りながら、地元定着に結び付くきめ細やかな取組を継続してまいります。

企業誘致につきましては、大曲企業団地をはじめとする本市の立地環境をPRするため、7月1日から3日間、東京ビッグサイトを会場に開催された国内最大規模となる製造業の展示会「第38回ものづくりワールド東京展」に初出展しております。出展期間中は、91社と面会しており、今後、本市の事業環境に興味をお持ちいただいた企業の皆様と、立地の可能性等について協議を進めることとしております。

次に、観光文化スポーツ部関係についてであります。

観光振興につきましては、「大曲の花火」や本市の街並み等が登場する人気アニメ「クレヨンしんちゃん」の映画最新作の公開にあわせて「しんちゃんと大曲の花火」をテーマに、様々なコラボレーション事業を展開しております。

7月13日、イオンシネマ大曲での先行上映会と同日にスタートした「大仙グルメラリー」では、キャンペーンに参加する飲食店において限定コースターのプレゼントや特産品とのコラボ商品の販売などが行われ、多くの皆様に好評をいただいております。

この後も「大曲の花火」などでの「しんちゃんグリーティングイベント」や周遊スタンプラリー、台湾での誘客プロモーションなどを実施する予定であり、人気アニメとのコラボにより本市観光コンテンツの魅力をより効果的に発信し、観光誘客の拡大につなげてまいります。

「だいせん田園ハーフマラソン」につきましては、6月21日、県内外から過去最多となる951人のランナーの皆様にエントリーいただき、フリーアナウンサーの相場詩織さんと、本市出身でプロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」のキャプテンである佐々木千紘さんをゲストにお迎えし、大台スキー場を主会場に開催しております。当日は、あいにくの雨天となりましたが、参加したランナーの皆様は、雄大な奥羽山脈と真木真昼県立自然公園を臨む美しい田園コースを颯爽と駆け抜けております。

「第8回全国500歳野球大会」につきましては、県外から26チーム、県内から6チームをお迎えし、7月18日から3日間の日程で、市内4球場において開催しております。決勝戦は、徳島県の吉野川クラブと秋田県の追分野球クラブが対戦し、大熱戦の末、吉野川クラブが初優勝を飾り「第31回世界少年野球大会秋田大会」をきっかけに創設された「王貞治杯」を手中に収めております。

次に、建設部関係についてであります。

「雄物川改修整備促進期成同盟会」、「国道13号大曲・秋田間整備促進期成同盟会」並びに「高規格道路本荘大曲道路整備促進期成同盟会」につきましては、近隣自治体の同盟会とともに、6月17日から7月24日までの間、秋田県選出国會議員、内閣官房、国土交通省、財務省、秋田県などに対し、集中的に要望活動を行っております。今後、激甚化・頻発化する自然災害に備え、老朽化するインフラを更新し、道路や河川の機能向上が早期に図られるよう、関係自治体と連携しながら要望活動を積極的に展開してまいります。

道路法面の地滑りにより通行止めが続く市道「松倉土川線」につきましては、現在、関係機関と被害調査を進めており、準備が整い次第、災害査定後の復旧工事を速やかに実施するため、今次定例会に用地測量に係る予算の補正をお願いしております。

次に、教育委員会事務局関係についてであります。

市民が主役のまちづくり講座「大仙アカデミー」につきましては、7月7日、大曲市民会館小ホールを会場に開催しており、約300人の皆様にご来場いただいております。今年度1回目となる今回の講座では株式会社オガール代表取締役の岡崎正信氏を講師にお迎えし「まちの未来をこの手でつくる一大仙から動き出す地方創生一」と題して、地域資源や公共空間を活かしたまちづくりについて、ご自身の経験や実践例などを交えた視座の高い貴重な講演をいただいております。

最後に、令和7年度の決算及び財政状況についてであります。

令和7年度決算につきましては、歳入において当初予算を上回る市税収入や普通交付税の追加配分、豪雪等の特殊事情が特別交付税に反映されたことに加え、歳出では、国の物価高騰対策により電気料をはじめとした施設運営経費が縮減されたことなどにより、普通会計の実質収支は、22億7,708万円の黒字となっております。

国民健康保険事業特別会計をはじめとする各特別会計の決算につきましては、全ての会計において実質収支がゼロまたは黒字となっており、市立大曲病院事業会計など4つの企業会計の決算における収益的収支は、いずれも黒字となっております。

主な財政指標につきましては、速報値ではありますが、実質公債費

比率は、普通交付税の配分が増加したことなどにより前年度比0.5ポイント減の10.8%を見込んでおります。また、将来負担比率については、全会計の市債残高が減少していることに加え、財政調整基金や減債基金、特定目的基金の積み増しにより前年度から12.0ポイント改善し、58.5%となる見込みであります。

今後の財政見通しにつきましては、人口減少などによる普通交付税への影響が懸念されるほか、金利上昇の影響による利払い費の増加、学校再編事業などの大型事業により歳出の増大が見込まれております。加えて、現在、改訂を進めている「大仙市公共施設等総合管理計画」に基づいた公共施設の適正配置を進めるとともに、道路・橋りょうをはじめとしたインフラの長寿命化などの喫緊の課題に適切に対応しつつも、自然災害などの有事に迅速に対応するため、一定の財政余力を確保しておくことも重要となっております。

こうした見通しのもと、人材希少社会に突入した今、限りある行財政資源を全体最適の視点から効率的に配分し、変化の著しい時代においても、将来を見据えた持続可能な行財政運営に努めてまいります。

以上、諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、市政の報告とさせていただきます。